

第 26 講 【 病理と病証 VII 】 教科書 P.79・80

『 肺の弁証(病証) 』

復習 1. 『 肺の生理機能 』

- ① 主 氣：肺は全身の気の生成・運行及び呼吸を主っている。
- ② 宣発肅降：肺は気の運動（気機）『 昇・降・出・入 』を主る。

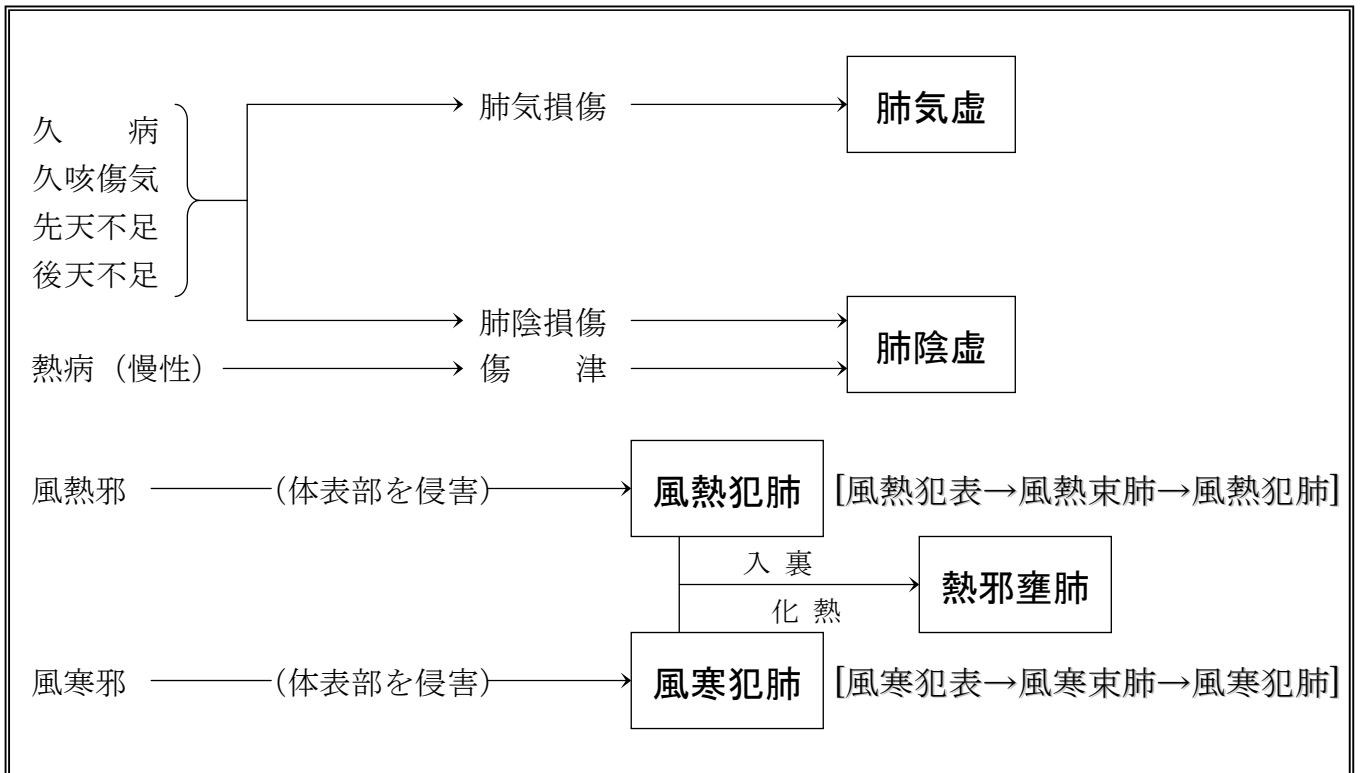
復習 2. 『 肺の気血陰陽失調の傾向 』

肺 : 肺気↓ — 肺血 — 肺陰↓ — 肺陽

[分類] { 虚 証：肺気虚、肺陰虚
 実 証：風熱犯肺、風寒犯肺、熱邪壅肺

* 教科書に宣発・肅降の失調とあるがこれは肺の病証全てで現われるものである。

[病因病機]



[常見症状]

『 主症状 』

咳嗽、気喘、息切れ等呼吸の異常、痰、鼻、咽喉、皮膚の症状

- * 宣発肅降の失調 → 全身の気の運行失調 → 呼吸困難 等
- * 肺の関連部位：鼻、咽喉、皮膚の症状

『 代表病証 』

① 肺気虚

：肺を構成する物質のひとつである肺気が不足した病態。

[症 状] 肺主症状 + 気虚症状

② 肺陰虚

：肺を構成する物質のひとつである肺陰が不足した病態。

[症 状] 肺主症状 + 陰虚症状（津液不足症状+虚熱症状）

③ 風熱犯肺（風熱表証・風熱感冒）

：風熱邪が肺の主る体表部（表）を侵している病態。

[症 状] 肺主症状 + 表実熱症状

- * 発熱悪寒、頭痛、咳嗽、鼻淵、四肢痠痛、脈浮数

④ 風寒犯肺（風寒表証・風寒感冒）

：風寒邪が肺の主る体表部（表）を侵している病態。

[症 状] 肺主症状 + 表実寒症状

- * 悪寒発熱、頭痛、咳嗽、鼻淵、四肢痠痛、脈浮緊・浮遅

⑤ 熱邪壅肺

: 外邪や痰湿等が肺に侵入・化熱し肺を構成する物質のひとつ肺陽を亢進させた病態。

[症 状] 肺主症状 + 実熱症状

- * 肺失宣降 → 咳嗽、鼻翼煽動
- * 熱傷肺絡 → 胸痛、膿血痰、咯血、衄血
- * 実熱症状 → 壮熱、口渇、大便秘結、尿短赤、痰粘稠黄色、舌紅苔黄、脈洪数

『 代表病証まとめ 』

	証 名	八 綱	具 体 症 状
①	肺気虚	裏 虚	咳嗽、気喘、息切れ、痰、鼻、咽喉、皮膚の症状、全身倦怠感、消瘦、倦怠感、精神疲労、無力感、呼吸微弱、自汗、活動後に諸症状悪化、眩暈、舌淡、脈虚・無力
②	肺陰虚	裏虚熱	咳嗽、気喘、息切れ、痰、鼻、口・唇・咽喉・皮膚・粘膜等の乾燥、口渇、尿量減少、大便乾燥、微熱、潮熱、五心煩熱、盗汗、舌紅少津、脈細数
③	風熱犯肺	表実熱	発熱悪寒、頭痛、咳嗽、鼻淵、四肢痠痛、咽喉の腫痛、皮膚の症状、脈浮数
④	風寒犯肺	表実寒	悪寒発熱、頭痛、咳嗽、鼻淵、四肢痠痛、咽喉の腫痛、皮膚の症状、脈浮緊・浮遅
⑤	熱邪壅肺	裏実熱	咳嗽、鼻翼煽動、胸痛、膿血痰、咯血、衄血、壮熱、口渇、大便秘結、尿短赤、痰粘稠黄色、舌紅苔黄、脈洪数